

◆ 急性期リハビリテーション

急性期リハビリテーションは、病気や怪我を発症した直後、入院中から始めるリハビリです。脳卒中や骨折、呼吸器疾患・心疾患等では、安静にしそぎると筋力低下や合併症を招きます。そのため理学療法士は、ベッド上での体位変換や起き上がり、立ち上がり練習を行い、早期から安全に体を動かします。作業療法士は、手や腕の機能回復や着替え等の日常動作を支援し、退院後の生活を意識した練習を取り入れます。言語聴覚士は、飲み込みや会話の障がいが起きた方に対し、「えん下」訓練やコミュニケーション支援を行います。医師・看護師等多職種と連携し、心身の回復を総合的に支えるのが急性期リハビリテーションの特徴です。



◆ 回復期リハビリテーション

回復期リハビリテーションは、急性期治療を終えた後に行い、自宅や地域生活への復帰を目指します。理学療法士は歩行や階段昇降等を中心に、体力やバランス能力を取り戻す練習を行います。作業療法士は、食事・着替え・入浴といった日常生活動作を練習し、家庭で再び自立できるよう支援します。さらに調理や買い物といった生活全般の活動も扱います。言語聴覚士は、言葉や飲み込みの障がいに対して訓練を行い、安心して食事や会話ができるように整えます。また、御家族への介助方法の指導や住環境整備の相談も大切な役割です。回復期リハビリテーションは心と体の両面から支え、社会復帰を力強く後押しします。

かかりつけ医をお持ちですか？

かかりつけ医を ご紹介します

日頃の健康状態を知っていて、気軽に何でも相談できる地域の医療機関（診療所・クリニック）「かかりつけ医」がいれば、体調等に関して様々なことが相談できます。また、入院や精密検査が必要な場合は、症状に合った適切な医療機関を紹介してくれます。

「かかりつけ医」がない場合、一般の方々が自己判断で受診を手控えたり、延期したり、あるいは、間違った対応策をとっているうちに重症化してしまうといったことがあります。「かかりつけ医」がいることでそれも防ぐことができます。

患者支援センターでは近隣の「かかりつけ医」を御案内しています。また、当院では地域の医療機関（診療所・クリニック）と連携し、診察・検査予約をお取りしています。

ホームページよりアクセスしていただき、当院の登録医療機関を気軽に検索していただけます。
ぜひかかりつけ医をお持ちでない患者さんは、御活用ください。

[かかりつけ医検索システムはコチラ▶](#)



当院におけるがん診療について

当院は、がん医療水準の向上及び安心かつ適切ながん医療が選択できることを目的として大阪府が指定する「大阪府がん診療拠点病院」に認定されています。

がんについて、当院ホームページにて解説をしていますので、記載のQRコードから御確認ください。

[当院ホームページ
「覚えておきたい「がん」のこと」▶](#)



吹田市民病院 だより



〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号
TEL (06)6387-3311
FAX (06)6380-5825
メール shomu@mhp.suita.osaka.jp
ホームページ <https://www.suitamhp.osaka.jp>



リハビリテーション専門職って どんなことをしているの？



かのう かずのり
参事 加納 一則
(リハビリテーション科)



本当のリハビリテーションって、御存知でしょうか？

「リハビリテーション」と聞いて、皆さんはどうな場面を思い浮かべますか？松葉杖での歩行練習、入院中の機能訓練、脳卒中後の言語訓練、——確かにそれらはすべてリハビリテーションの一部です。しかし、リハビリテーションの本質は、それだけでは語り尽くせません。

リハビリテーションという言葉は、ラテン語「rehabilitare」に由来し、「再び権利や尊厳を取り戻すこと」という意味を持っています。つまり、単なる身体の機能回復ではなく、人が自分らしく生きるために再出発を支援する——それが本当のリハビリテーションです。

例えば、大きな怪我や病気によって生活に支障をきたした方が、再び家族と笑顔で食卓を囲む、自分の役割を果たして地域の中で過ごす、あるいは仕事に復帰し、充実した日々を取り戻す——その道のりを支えるのがリハビリテーションです。それは医療の枠を超えて、生活に寄り添い、心を支える取り組みなのです。

リハビリテーションには、様々な専門職が関わります。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はもちろんのこと、看護師、医師、社会福祉士まで、多職種が連携しながら「その人のこれから的人生」を支えていきます。一人一人の価値観や生活背景を大切にし、本人の希望を尊重する。そこにリハビリテーションの真髄があります。

当院では、この「本当のリハビリテーション」の理念を大切にしています。患者さんの「こうありたい」「こう生きたい」という思いに寄り添いながら、医療と地域が手を取り合って、個々の人生を再構築する御手伝いをしています。

病室の外に目を向け、その方の「生活の風景」にこそ価値を見出す——それが、私たちが目指す支援の形です。この特集では、リハビリテーション専門職（リハビリテーション科医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の、それぞれの専門性と役割はどのようなものか、情熱を持って取り組んでいる姿を通して、「リハビリテーションってこんなに奥深いものなんだ」と感じていただけるような内容をお届けします。

リハビリテーションとは「その人らしさを取り戻す旅」であり、「人生の再スタートを応援する関わり」です。ぜひ最後までご覧いただき、リハビリテーションの本当の姿に触れてみてください。

リハビリテーション専門職って どんなことをしているの?



おか むら けい すけ
医長 岡村 圭介
(リハビリテーション科)医師



私たち、リハビリテーション科医の役割は多岐にわたる職種が患者さん一人一人に向き合い、生活に戻るためにお手伝いをする中での「管理」を担います。管理とは、適切なリハビリを受けられるよう、体調を管理し、それにあった目標を設定し、退院までの道筋を調整すること等が挙げられます。

具体的には、日々の診療に加えて、脳卒中の予後予測、麻痺のある患者さんへの適切な装具の選定、えん下障害のある患者さんに対して誤えんを防ぐための安全な食形態の提案、現状や目標等をスタッフ間で密に話し合い、共有したうえで、患者さん自身や御家族に面談にて説明し、退院後のイメージを明確にしてもらうこと等が含まれます。

私たちはチームをまとめる立場として、患者さんが安全に退院できるよう、日々の業務に真摯に取り組んでいます。



つる たかし
技師長 都留 貴志
(リハビリテーション科)理学療法士



理学療法士(PT)は、怪我や病気、高齢等により身体の動きが不自由になった方に対し、運動やリハビリ指導を行う専門職です。

リハビリと聞くとマッサージ等のイメージが大きいかもしれません。実はそれは筋肉をほぐすための技法であり、それだけを行うことはありません。歩く・立つ・座る等の基本動作ができるよう、筋肉や関節を動かしたり、運動方法を指導しています。また、痛みの軽減や体力維持・向上を目指し、一人一人の状態に合わせた適切なプランを作成します。退院後も安心して生活できるよう、自宅での運動方法や生活の工夫をアドバイスすることもあります。理学療法士は、患者さんの「できる」を増やし、笑顔あふれる毎日を支えています。



つね み もと こ
技師長 常深 志子
(リハビリテーション科)作業療法士



作業療法とは、怪我や病気によって日常生活に支障がある患者に対して、より自分らしく生活できるように様々な作業活動を通して心身機能の回復や維持、社会参加を支援するリハビリテーションのことです。

作業療法でいう「作業」とは食事や、入浴、着替え、排泄等身の回りのこと(日常生活動作)だけでなく、仕事や家事、趣味、余暇活動(応用生活動作)等、人が生活していくうえでその人にとって大切な、意味のある活動全般を指します。また、精神的なケアや社会参加に向けたサポートも行います。

我々作業療法士(OT)は、御本人や御家族の希望を聞きながら、目標を決定し、それに沿ったリハビリテーションを実施します。



ただ ひで あき
多田 英哲
(リハビリテーション科)言語聴覚士

皆さん、言語聴覚士(ST)を御存知ですか。

NHKの朝ドラ「おむすび」にも登場し、認知度が上がってきている「コミュニケーション」、「食べること」に困りごとのある方を支援する専門職です。

脳卒中後の言葉の障がい(失語症)や発音が不明瞭になる構音障害、食べ物や飲み物がうまく飲み込めなくなるえん下障害に対してリハビリテーションを行っています。えん下障害の方には耳鼻科や放射線科と連携し、えん下内視鏡検査やえん下造影検査を行っています。飲み込みの状態を詳しく評価し、最適なリハビリ方法、安全な食形態を決定しています。

患者さんが安心して食事や会話を楽しめるよう、多職種と連携し支援を行っています。